

委員会企画シンポジウム

■ 2025年7月12日(土) 10:10 ~ 11:40 皿 第3会場 (文化会館棟 B1F 小ホール)

委員会企画シンポジウム4 (III-CSY4)

課題研究委員会年次報告セッション

座長：新居 正基 (静岡県立こども病院 循環器科)

座長：武田 充人 (北海道大学大学院医学研究院小児科学教室)

パネリスト：澤田 博文 (三重大学医学部)

パネリスト：吉兼 由佳子 (福岡大学 医学部)

パネリスト：石田 秀和 (大阪大学大学院医学系研究科小児科学)

[III-CSY4-7] 研究課題B：先天性心疾患患者のRSV感染予防に関する研究

○山岸 敬幸 (東京都立小児総合医療センター)

キーワード：シナジス、ベイフォータス、抗RSウイルス抗体薬

RSウイルスは乳幼児における肺炎、細気管支炎の主な原因であり、炎症が下気道に波及すると重症化することが知られている。先天性心疾患 (congenital heart disease: CHD) を有する患児は重篤化リスクが高いことから、積極的な重症化抑制が求められる。しかし、抗RSウイルス抗体薬の投与には、医学的要素に社会的要素が加わり、判断が困難な場合も少なくない。そのような中、CHD児におけるRSウイルス感染症の重症化抑制は、新たな時代に突入した。1シーズンにつき1回投与のプレフィルドシリンジ製剤であるベイフォータス^Rが登場したことで、患児と家族および医療従事者の負担が軽減された。抗RSウイルス抗体薬の投与の判断には、関連する学会の専門家によって統括された日本小児科学会のコンセンサスガイドラインを参考にして、各地域で相談して足並みを揃え、症例によっては個別に検討することも重要である。今後、新たなRSウイルス感染症の重症化抑制に関するエビデンスの集積とともに、“All Infant”ならびに“通年性”を含めて、抗RSウイルス抗体薬の投与計画の標準化が求められる。